

11月5日 Reflection1

本ミーティングでは、岡山県におけるESD（持続可能な開発のための教育）推進プロジェクトの事例をもとに、2つのグループの研究生が合同で議論を行いました。今回は国外の研修員に加えて、プレゼンターである岡山県教育委員会の小坂さん、広島大学から朝倉さんが参加しました。

まずは Nakos さんの主導で、これまでの講義を通して研修員が学んだ点が共有され、エジプトの Hanem さんから、2つの問題提起がされました。1つ目は、エジプトのような、依然として子供達の低い認知的スキルが課題である国で、さらに市民としての資質まで身につけさせなければならない状況です。2つ目は、移民を多く受け入れる国が、教育だけでなく持続可能な社会構築に対する支援も行う必要がある点です。これらの問題に対し、何か方策があるか？という質問が投げられました。小坂さんからは、いずれ日本もエジプトと同じ環境が訪れるため、むしろ日本が諸外国から学ぶ立場であることを指摘しました。

では各国は「持続可能な開発のための教育」に、いかなる状況下で取り組んでいるのでしょうか。例えばカンボジアでは、教育に対するコミュニティや親の関心が低く、学校経営に巻き込むことが難しい状況が共有されました。パプアニューギニアでは85%の島が資源を所有しており、それぞれの島の裁量で資源を開発に用いることができます。エジプトの研修員からは、日本でエジプトの教育を紹介した時に、子供達が衝撃を受けていた情景がシェアされました。自国の状況を当たり前捉えていたため、ギャップに驚いたのだといいます。その経験から、子供を世界とリンクさせて幅広い視野を獲得させるべきではないか？という意見が挙がりました。

以上のような議論の中で、国際教育開発に携わる吉田先生からは、教育が国家にとって長期的な投資であること、国家創生のためのあらゆる資本を形成する営みである、という全体へのメッセージが強調されました。

